

乳児期からの長期外用と反復悪化を経て治療を開始した小児アトピーの経過 (7歳女児)

症例 ID：001-07-MU | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

生後1か月頃から顔に湿疹が広がり、乳児期から複数の外用薬、抗アレルギー薬などを使用しました。良い時期と悪い時期を繰り返し、小学校入学後に再び全身症状が強くなりました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	乳児期からステロイド外用薬、抗アレルギー薬などを断続的に使用しました。
製品名	製品名は不明です。
強度	不明です。
使用期間	乳児期から7歳頃まで断続的に使用しました。
中止時期	松本医院での治療開始前後です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後1か月頃	発症	顔に湿疹が出て、外用薬を使用しました。
乳幼児期	反復経過	症状の改善と再燃を繰り返し、複数の治療や民間療法を試しました。
小学校入学後	再燃	環境変化とともに全身症状と夜間の強いかゆみが再び悪化しました。
出産前後の家族事情	強い悪化	家族の出産時期と重なり、昼夜を問わず掻きむしり、学校を休む状態となりました。
12月26日	治療開始	松本医院で入浴、外用処置、煎じ薬による治療を開始しました。
治療3日後～	リバウンド	泣き叫び転げ回るほどの掻破があり、夜間に数回起きる状態が続きました。
治療28日目	記録時点	強い症状は続いており、家族の支援のもと治療を継続していました。

4. ピーク時期

ピークは、小学校入学後の再燃から治療開始後にかけて、昼夜を問わず全身を激しく掻き、学校を休み、家族が交代で見守った時期です。

5. 困りごと

- 夜間の激しいかゆみと掻破により、本人と家族の睡眠が妨げられました。
- 学校を休む必要があり、家族全体の疲労が大きくなりました。
- 複数の治療を試しても症状が反復し、治療方針の選択に負担がありました。

6. 経過のまとめ

治療開始28日目の記録であり、強い症状は続いていました。
家族の支援を受けながら入浴、外用処置、内服を継続している段階でした。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。